

## 那賀町地域再生塾

### 事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活用となり積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

那賀町の地域再生塾は、地域再生塾の塾生（那賀町民）で組織する「地域再生塾丹生谷応援団」と協働し、活動を指導、支援することを通して、那賀町における地域再生人材育成と地域の活性化を図ることを目指している。

#### 2. 事業の取組状況

##### ① 棚田復活への挑戦（蛍の棚田プロジェクト）

今年度も引き続き、耕作放棄された棚田の復活に取り組んだ。活動は4年目となる。耕作が行われなくなって失われた「蛍が舞う景観」を再生するため、地域再生塾丹生谷応援団員と徳島大学の学生等が那賀町相名の棚田で、田植え等を行った。本活動により、徐々に蛍が舞う景観が戻ってきている。



##### ② 那賀町と連携した「那賀町の新しい観光推進事業」

四国霊場の第21番札所「太龍寺」を訪れるロープウェイ利用客に、同寺の奥の院「黒瀧寺」を参詣する観光ルートを提案し、那賀町深部まで誘導する事業に取り組んでいる。

##### (1) 丹生谷秘帖プロジェクト

地域再生塾丹生谷応援団が認定した丹生谷（那賀町）のパワースポット（太龍寺、水崎廻り、黒瀧寺）に、スマートフォンの専用アプリで写真をスキャンするとそのスポットに応じた動画が見られる高札看板を設置した。太龍寺を訪れる国内外の観光客が増えていることを受け、水崎廻りや黒瀧寺にも関心を持ってもらうための試み。

また、太龍寺から奥の院 黒瀧寺へと巡るルートを記した「丹生谷秘帖3Dトリックアート看板」を、道の駅 鷺の里で公開した。お遍路さんや観光客に那賀町のことをもっと知



てもらうことを目的に考案。平成30年4月27日に行われた除幕式では、公開を見守っていた子どもや保護者から歓声があがった。

平成30年7月16日には、徳島大学の外国人留学生を招き、「丹生谷秘帖」に記されたルートを巡るモニターツアーを実施した。実施したアンケー

### 事業代表者・連絡先

山中 英生（地域創生センター・副センター長）  
〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1  
tel: 050-8804-3990  
e-mail: ouendan@whk.ne.jp

ト調査では、目で見て楽しめる看板や訪問先については概ね好評であったが、アクセスや通信環境に課題が残った。



(2) 那賀町PRビデオ「那賀町探訪～太龍寺から奥の院黒瀧寺へ～編」の製作

太龍寺から水崎廻り新四国を経て奥の院 黒瀧寺までのルートを紹介する動画「那賀町探訪～太龍寺から奥の院黒瀧寺へ～編」を製作。作品は、第8回ICT（愛して）とくしま大賞に応募され、奨励賞を受賞した。動画は町内の道の駅（鷺の里、もみじ川温泉）の他、YouTubeでも公開している。



##### ③ なかはなかなかいいなかAR写真展

AR（拡張現実）技術を活用し、那賀町の観光名所等を紹介するAR写真展を「那賀町もってこい祭り（平成30年10月8日）」や道の駅で開催した。



#### 3. これまでの取組状況

##### ① ゆずばあちゃん

那賀町の特産農産物「木頭ゆず」を町のイメージキャラクター化した「ゆずばあちゃん」や町名を活かしたキャッチフレーズ「なかはなかなかいいなか」を提案、町内の観光施設鷺の里の観光案内板等に採用されている。また、ゆずばあちゃんの着ぐるみは交通安全キャンペーンや町内外の催しで活用されている。

##### ② はんごろし

地域で使われてきた「おはぎ」の呼称を復活させた「はんごろし」は、町外イベントでも早々に売り切れ、町内の和菓子店に町外からの引き合いがあるなど、地域発の名物としての評判が定着している。

##### ③ かきまぜ

郷土料理の「かきまぜ」を「柚子酢（木頭柚子の果汁）を使ったちらし寿司」と定義してPRしたところ、「かきまぜ丼」「かきまぜセット」等の名称で提供する飲食店（道の駅 鷺の里・菩提樹）も出てきている。

## 上勝学舎

### 事業のポイント

■ 四国で最も人口の少ない町上勝町において、持続可能な地域づくりのため徳島大学と上勝町との包括協定に基づき展開する事業。  
■ 子育て支援及び新しい学びの場づくりを行う「森の学校プロジェクト」、持続可能な地域づくりに資する「地域再生講座」を展開。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

上勝学舎事業は、平成21年にスタートした。平成30年度は、上勝町の地域資源である森を活用した子育て支援及び新しい学びの場づくりを目指す「森の学校プロジェクト（上勝自然学校もりのべ）」を推進した。

#### 2. 事業の取組状況

上勝自然学校もりのべは平成28年度末に発足し、平成29年度に本格開始。平成30年度で2年目となる。今年度も継続し、徳島大学教養教育院授業「学校をつくらう」との連携により事業を展開した。

上勝フィールドワーク（平成30年5月26日）

上勝自然学校もりのべの学生スタッフとなる授業「学校をつくらう」の履修生が、上勝町を知る・上勝町を体験するためのフィールドワークを行った。上勝町市宇の森の中で、木に触れたり、草に寝たりと自然と向き合った。もりのべの準備に必要な「測量」や「石積み」も学んだ。市宇集落の方からのお話、もりのべスタッフの三村氏からの「水源」のレクチャー等、上勝町市宇集落の歴史について学ぶ機会となった。



もりのべワークショップ（平成30年6月21日）

6月23～24日に開催する初夏キャンプに向け、もりのべメンターのマット・ビボー氏と学生スタッフと徳島城公園の森の中でアクティビティを行い、自然教育の導入に良い時間となった。

その後、徳島大学蔵本キャンパスで、マット・ビボー氏と医学部学生たちとが、医療、自然、教育について話し合いを行い、有意義なワークショップとなった。



もりのべ初夏キャンプ（平成30年6月23～24日）

米国オレゴン州ポートランドのパーマカルチャー子ども教育研究所のマット・ビボー氏をゲストに迎え、もりのべ初夏

### 事業代表者・連絡先

吉田 敦也（地域創生センター・センター長）  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

キャンプを開催した。

2日間を通して、子どもたちの好奇心が刺激され、自然を楽しむながらどんどん積極的になっていき、生きる力を学んでいる様子が見て取れた。



もりのべサマーキャンプ（平成30年8月16～19日）

6月の初夏キャンプに引き続き、米国オレゴン州ポートランドからマット・ビボー氏をゲストに迎えて、昨年度から第2回目となるサマーキャンプを開催した。

8月16、17日は1日単位のワンデーコース。草の匂い、土の感触、木々や地面に鼻をくっつけ、手で触って感じる等、全身を使って森を感じ、森に学ぶプログラム「もりのたからさがし」を行った。

この2日間で上勝町内の学童保育に通う子ども達延べ23名、徳島市内の子ども延べ3名と保護者1名が参加し、上勝町の自然に学んだ。

子どもたちは、森の中には異なる色の木があること、花や草でカラフルな絵が描けること等、実際に森に入ってみないと、また、やってみないとわからない新たな気づきを得る機会となった。

8月18、19日は徳島大学病院小児科の小児糖尿病の子ども達延べ23名と医師・医学部学生延べ61名が参加し、ツーデイズコースを体験した。

子ども達からは普段と異なる環境で思い切り遊び、いろいろな人とコミュニケーションをとれたことや、昨日の森と今日の森の違うところを探すと落ち葉の量が違うことに気づけたこと等、様々な側面で良い勉強になったという感想があった。



## 徳島大学・美波町地域づくりセンター

## 事業のポイント

■人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

## 事業の概要

## 1. 事業の目的

当センターは、2013年7月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所3階に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

## 2. 事業の取組状況

## ① 研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。平成30年度は、第42回(2018年度)地域安全学会研究発表会(春季)、2018年度日本建築学会大会(東北)、第65回海岸工学講演会(2018)等で研究発表を行った。

## ② 持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。平成30年度は、美波町、美波多文化共生ネットワーク「ハーモニー」と合同主催、初めて美波町自主防災会連合会共催のもと、第3回目となる「在住外国人を対象とする防災ワークショップin美波」(1月27日)を開催し、外国人16名を含む30名の参加があった。

## ③ 視察研修及び学生インターンシップの対応

当センター及び美波町の先進的な取組を視察研修に来る国内外の防災・まちづくり関係者(大学研究者、自治体職員、自主防災会等)の対応を行っている。平成30年度は、美波町補助金事業で『美波町津波防災視察研修プログラムの開発』を行い、平成30年度徳島県新規採用職員研修(前期)活動Ⅲ「防災まちづくり」(4月13日)、平成30年度JICA研修「コミュニティ防災(A)」(11月9日～10日)及び「災害に強いまちづくり戦略」(2月19日)、平成30年度徳島県シルバー大学校大学院(第15期生)第2回現地研修(1月23日)等、計18件、延べ335名の受入を行った。その他、学生インターンシップの受入れも行っており、平成30年度は徳島県内大学生2名の受入も行った。

## ④ 美波町の自主防災活動の支援

美波町自主防災会連合会及び由岐湾内3地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。平成30年度は、前者については、美波町避難所開設・運営訓練(11月10日)や県外視察研修(2月2日～3日)等の支援を行った。また後者については、避難まつり2019(4月29日)や夏休み防災教室(8月1日)、南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応ワークショップ(2月22日)等の支援を行った。

## 事業代表者・連絡先

山中 英生(地域創生センター・副センター長)  
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字西地50-1  
(美波町役場由岐支所3階)  
tel: 0884-70-1274  
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

## ⑤ 美波町地域づくりの支援【新規】

本学の田口太郎准教授指導のもと、美波町と協働で役場若手職員研修も兼ねた「美波町先読みワークショップin東町」(11月15日、12月20日、1月21日)を3回開催し、東町における10年先を見据えた地域づくり計画の策定支援を行った。

## ⑥ 牟岐町防災サークルの支援【新規】

平成30年度に牟岐町在住の小中高生や学校教員、自主防災会、徳島県南部総合県民局等と連携して発足した牟岐町防災サークルの活動支援を行った。平成30年度は、昭和南海地震津波体験者の聞き取り調査&証言記録DVDの制作や防災デイキャンプ(2月24日)の支援を行った。

## ⑦ 小中高等学校での防災教育の支援

美波町内外の小中高等学校で防災教育の支援を行っている。平成30年度は美波町補助金事業で、美波町、美波町自主防災会連合会、徳島県南部総合県民局と協働で『美波町防災教育プログラムの開発』を行った。美波町防災教育推進協議会のアドバイザーを務め、また本学の浮田浩行講師や光原弘幸講師の協力のもと、由岐小学校5・6年生及び日和佐小学校5年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムを作成、計30回、延べ810名に授業を行った。

## ⑧ その他(講師、委員等)

徳島県内外での防災まちづくりに関する講演会等の講師を計20回務め、また徳島県復興指針検討委員会等の委員会に計10回出席した。



平成30年度「在住外国人を対象とする防災ワークショップin美波」



「美波町先読みワークショップin東町」



由岐小学校6年生防災学習「3Dプリンターで津波碑を作ろう」

## にしあわ学舎・神山学舎

## 事業のポイント

■にしあわ学舎は平成27年3月、三好市井川町(三好市役所 井川支所)に設置。県西部2市2町(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)を対象に地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。  
■神山学舎は平成27年5月、神山町(神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス)に設置。若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。

## 事業の概要

## 1. 事業の目的

平成29年度から、にしあわ学舎では、地域創生事業「徳島の自然を暮らしに取り込むプロジェクト」を実施している。祖谷のかずら工芸職人の高齢化、現象を背景として、その技術を後世に伝えていくための新しい形を模索することを目的に、徳島県内の各地で活躍するデザイナーらとともに、「かずら」を素材とした、現代の生活に馴染む新たなプロダクトやお土産等をデザインする試み。平成30年度は、神山学舎とコラボしながらプロジェクトを継続し実施した。

## 2. 事業の取組状況

かずら採取ワークショップ(平成30年12月1日)

(株)AWA-REの井上琢斗氏のコーディネートで、三好市西祖谷地域の山に入り、かずら採取の方法を学んだ。かずらを探すコツや、採る際の注意点を解説してもらい、学びながら採取を行った。



## 【神山学舎×にしあわ学舎】

“神山杉×祖谷かずら”スツールづくりワークショップ

神山の地域資源である「神山杉」と祖谷の「かずら」をコラボしたスツールづくりワークショップを2回に分け実施した。全国各地でその土地の資源を活かしたものづくりに取り組む家具デザイナーの鴻野祐氏がデザインした神山杉を利用したスツールのフレームに、座面のかずら編みデザインを参加者といっしょに考えるというもの。

## 事業代表者・連絡先

吉田 敦也(地域創生センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

Day1 ～めぐる～(平成30年12月5日)

Day1は、カフェ オニヴァの吉澤公輔氏の案内のもと、「神山杉」を学ぶアートツアーを実施。神山町では地域資源である神山杉の利活用がなされており、「神山しづくプロジェクト」の視察、神山学舎での(一社)神山つなぐ社の赤尾苑香氏から地域資源を活用した集合住宅についての話題提供、町産材の製材を行う小西製材所の視察等を行った。また、現在フィンランドの大学に在学中の鴻野氏から、Web中継で今回のスツールづくりワークショップのデザインについて説明があった。最後には、かずらかご編みにも挑戦し、かずら編みの基礎を学んだ。



Day2 ～つくる～(平成30年12月9日)

鴻野氏がデザインした神山杉のフレームに、かずらを編み込んでオリジナルのスツールづくりに挑戦した。参加者らは各自が考えたオリジナリティあふれる座面のデザインを形にした。その後、フィンランドの鴻野氏とWeb中継し、スツールの講評会を行った。

2回のワークショップは、地域資源の循環や自分でデザインを考え、形にすること等、参加者にとって学びの多いものとなった。

